

子どものための B O O K G U I D E
— 10 —



TAKE ME OUT TO THE YAKYU

著者: Aaron Meshon
出版社: Simon & Schuster

こ
こではこれまで語数の少ない絵本を紹介してきました。しかし、語数が多くてもわかる英語の文章はあります。例えば、よく知っているテーマや内容のものです。さて、今回は「野球」の日米比較絵本を。

これはおじいさんと野球観戦に行った男の子の一日を描いた絵本です。左のページがアメリカで、右のページが日本。こんな感じです。

【(左)In America, Pop Pop(※) also gets us hot dogs and peanuts before we find our seats.【ホットドッグと、ピーナッツと、入場券の絵】/(右)In Japan, Ji Ji also gets us soba noodles and edamame before we find our seats.【ラーメンと、枝豆と、チケットが表示された携帯電話の絵】

【(左)In America, we cheer: 'GET A HIT!' 'GO FOR IT!' 'WIN!'/(右)In Japan, we cheer: 'KATTOBASE!' 'GANBATTE!' 'DO YOUR BEST!'/(どちらも、球場で応援する観客の絵】

やがて試合が終わります。(左)My favorite American

team won!/(右)My favorite Japanese team tied!そして、(左)After the game, Pop Pop gets me my favorite player's jersey./(右)After the game, Ji Ji gets me my favorite player's towel. こんなふうに、わからない単語はあっても、なんとなく意味がわかってしまうところが楽しい。また、日米の違いがうまく表現されているうえに、男の子の気持ちが生き生きと描かれているのがすばらしい。

巻末には「Pitcher/Toushu どうしゅ」「Cheer/Ouen おうえん」「Snack/Oyatsu おやつ」といった対訳表もあって便利です。日米のルールや歴史の違いが短くまとめられているのも、おもしろいと思います。

途中で「In Japan, we ride to the game in a short red bus that turns into a train.」とあります。「途中から電車になるバスなんてないぞ」と思って調べてみたら、これは「名古屋ガイドウェイバス」のこのようです。アメリカの絵本に教えられました。

※Pop Popは一般の辞書には載っていませんが、おじいさんを親しみを込めてよぶときに使うことがあるそうです。

金原瑞人
かねはら みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど580点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『Here We Go!』(光村図書)の編集委員を務める。